

# 特別テーマ展関連講座

—押出遺跡の6次調査と山形県内の縄文前期後半の世界—

講義 2

## 川内袋遺跡の調査成果

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

齋藤 主税 氏

平成30年7月8日(日)

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

かわうちぶくろ  
川内袋遺跡

遺跡番号 1968(山形県遺跡地図)  
調査回数 第1次  
所在地 山形県鶴岡市大字五十川字川内袋  
北緯・東経 38度40分04秒・139度37分31秒  
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所  
調査原因 日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設事業  
調査面積 6,500㎡  
現地調査 平成19年5月8日～12月18日  
調査担当者 齋藤主税(調査主任)・今正幸・庄司隆志・伊藤純子・阪英子・向出博之・山木巧・山澤護・渡辺和行  
調査協力 東日本高速道路株式会社東北鶴岡工事事務所・庄内教育事務所・鶴岡市教育委員会  
遺跡種別 集落跡・狩猟場  
時代 縄文時代  
遺構 竪穴住居・陥穴・貯蔵穴・炉跡・土坑・ピット  
遺物 縄文土器・石器・須恵器  
(文化財認定箱数:466箱)

遺跡地図



調査の概要

川内袋遺跡は、日本海沿いにあるJR羽越本線五十川駅の東方400mに位置する。出羽山地から日本海に注ぐ五十川右岸の舌状に張り出す丘陵部及びその裾部分に立地している。

昭和58年に裾部分が開田され、遺跡のかなりの部分が破壊されたと考えられる。この時に縄文土器や石器が大量に出土して地元中学生により採取され注目された。この出土遺物は現在五十川小学校に保管されている。

また、これより先の昭和50年代前半には高台の丘陵

部分に重機が入り整地されたと聞いている。

今回の調査は、日本海沿岸東北自動車道路建設に伴う緊急発掘調査として行われた。山形県教育委員会による平成10年度の表面踏査、平成17・18年度の試掘調査で柱穴などの遺構や縄文土器・石器が確認された遺跡である。

今年度の調査は道路建設にかかる6500㎡について実施した。調査の便宜上、調査区をA～C区の3地区に分けて行った。

A区は丘陵裾部分に位置し地目は水田である。標高約17mを測る。遺物包含層の厚さは60cm程もあり、縄文土器や石器が大量に出土している。B・C区は尾根状を呈する丘陵部に位置し地目は雑木林で標高36mを測り、大型住居跡・フラスコ状土坑・<sup>おとしあな</sup>陥穴等が検出された。

遺構と遺物

A区では縄文時代前期の<sup>たてあなじゆうきよ</sup>竪穴住居跡4軒と土坑・柱穴ピットが検出された。このほか縄文時代後期と見られる土坑1基が検出されている。1軒の竪穴住居跡では床(土間)が3回ほど作り変えられているものがあり、炉跡には縄文土器が埋設されていた。この他の<sup>たてあなじゆうきよ</sup>竪穴住居跡では地面で直接火を焚いた<sup>ちしょうろ</sup>「地床炉」が検出されている。

また、尾根上のB・C区から崩れてきたと見られる多量の土器と土砂、大小の礫群が多数確認されている。

B・C区では大型住居跡1軒・<sup>たてあなじゆうきよ</sup>竪穴住居跡2軒・フラスコ状貯蔵穴約20基・<sup>おとしあな</sup>陥穴13基・柱穴・ピット(小穴)などが多数検出された。<sup>たてあなじゆうきよ</sup>竪穴住居跡の上に大量の土砂や土器、石器が捨てられて埋没した後に<sup>おとしあな</sup>陥穴が掘り込まれている例も確認された。

出土した遺物のほとんどは縄文時代前期後葉～末葉の土器、石器である。この他には少量の縄文前期前半、後期の土器片、さらに僅少ではあるが須恵器片が出土している。縄文時代前期の土器は大木4～6式の土器が主体である。

石器は<sup>せんとうき いしさじ いしべら</sup>尖頭器、石匙、石篋、石鏃、<sup>ませいせきふ</sup>磨製石斧、<sup>せきすい</sup>石錘、石皿、<sup>すりいし</sup>磨石、<sup>けつじょう</sup>玦状耳飾、石製品などが出土している。

#### まとめ

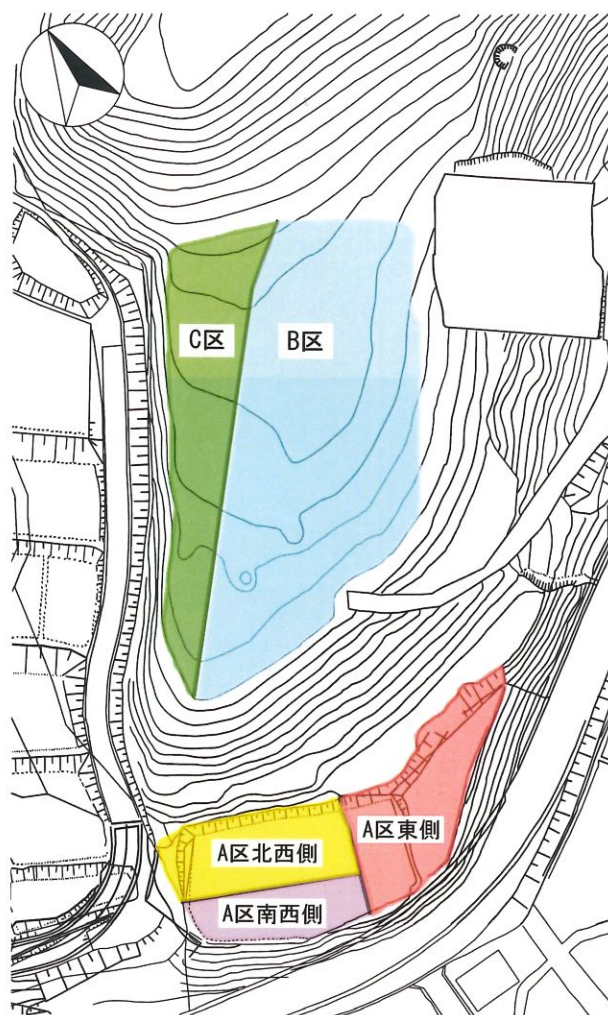
川内袋遺跡は縄文時代前期後葉～末葉を中心とする集落跡、包含層の遺跡である。標高17m程の丘陵裾部のA区からは竪穴住居跡と遺物包含層が検出され、標高36m程の尾根上のB・C調査区からは大型住居跡・竪穴住居跡・フラスコ状土坑跡・陥穴・小穴などが検出されている。

出土遺物は最終的に466箱を数えた。その7割ほどがA区の遺物包含層から出土している。

川内袋遺跡の今回の調査の特徴は、大量に出土した縄文土器・石器の遺物量に比べ、検出された縄文時代の住居跡などの遺構が少ないことがあげられる。その理由はいくつか推定される。

一つには今回の調査区の西側が25年ほど前に開墾破壊され、遺構も消滅してしまった。二つ目には、この遺跡の所在地がかなり以前(縄文時代?)から地滑り地帯であり、遺構が埋没してしまっている。三つ目には、今回調査した地区の外に川内袋遺跡の中心部がある。

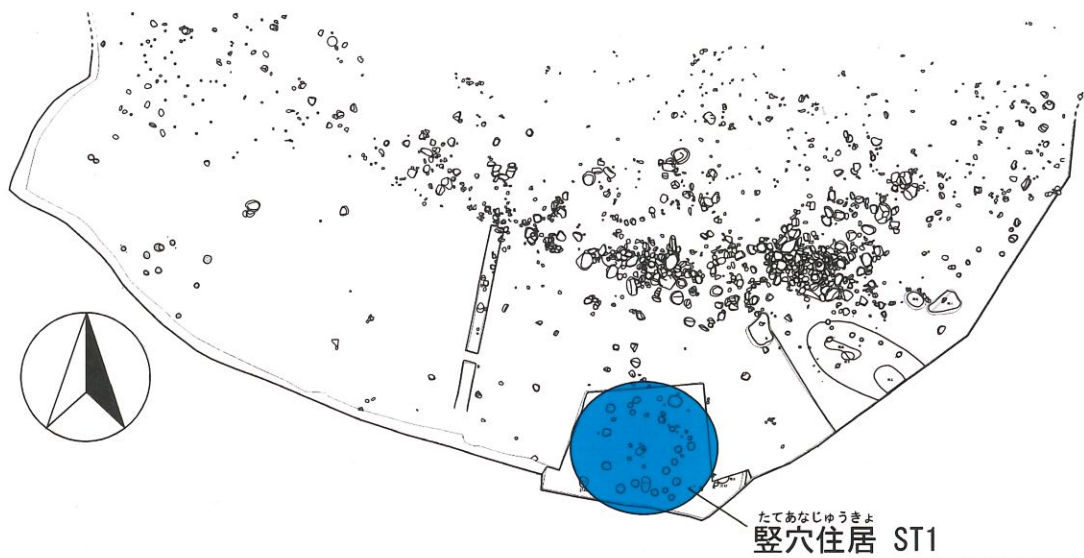
以上のことが可能性として考えられる。



調査区概要図 S=1/1000



調査区全景



たてあなじゅうきよ  
竪穴住居 ST1

A区遺構配置図 S=1/400



A区全景(北側より)



A区遺物出土状況



たてあなじゅうきよ  
竪穴住居ST1



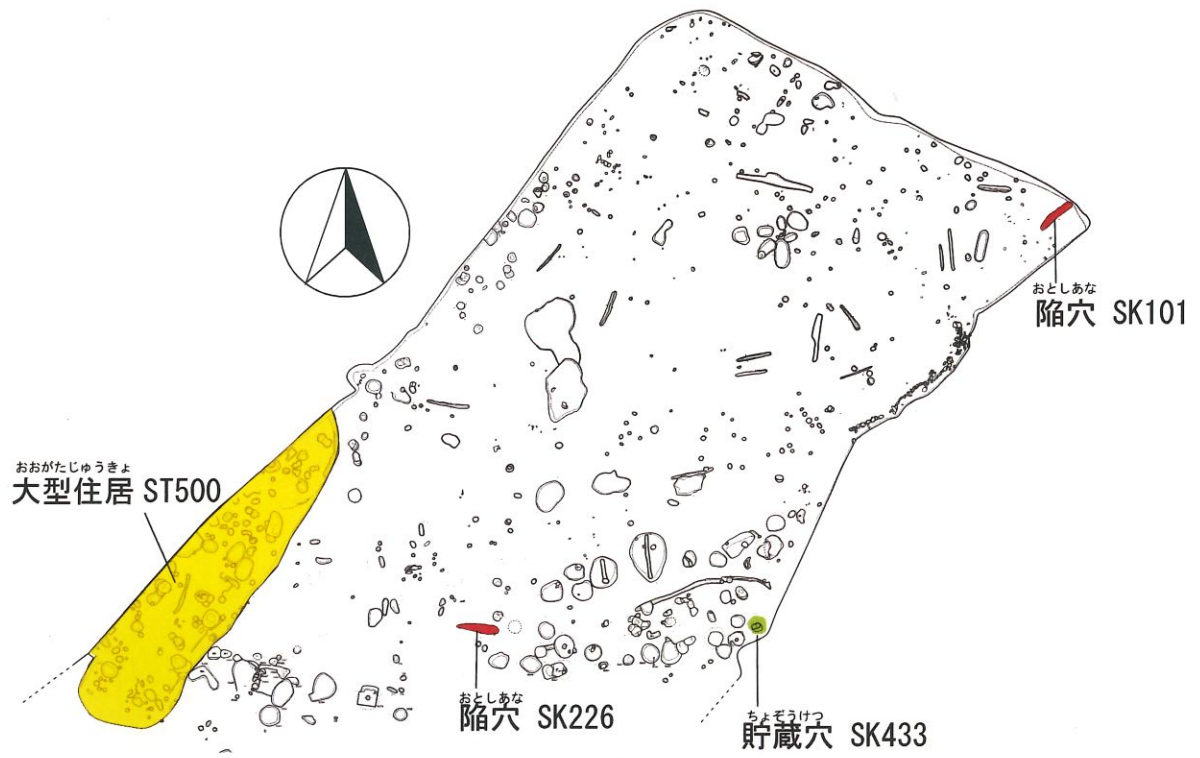
A区遺物出土状況



いしきじ  
石匙



縄文土器



B・C区遺構配置図 S=1/600



B・C区全景



おおがたじゅうきよ 大型住居 ST500全景



おとしあな 陥穴 SK101



おとしあな 陥穴 SK226



ちよぞうけつ 貯蔵穴SK433断面

图 4 遗址平面图



X -147,140

-147,145

-147,150

-147,155

-147,160

-147,165

-147,170

-147,175

-147,180

-147,185

-147,190

-147,195

-147,200

-147,205

-147,210

-147,215

-147,220

-147,225

-147,230

-147,235

-147,240

-147,245

-105,075

-105,080

-105,085

-105,090

-105,095

-105,100

-105,105

-105,110

-105,115

-105,120

-105,125

-105,130

-105,135

-105,140

-105,145

-105,150

-105,155

-105,160

-105,165

-105,170

-105,175

-105,180

-105,185

-105,190

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

X-11

12

13

14

X-15

16

17

18

X-19

20

21

22

X-23

24

25

26

27

28

29

Y -105,190

-105,185

-105,180

-105,175

-105,170

-105,165

-105,160

-105,155

-105,150

-105,145

-105,140

-105,135

-105,130

-105,125

-105,120

-105,115

-105,110

-105,105

-105,100

-105,095

-105,090

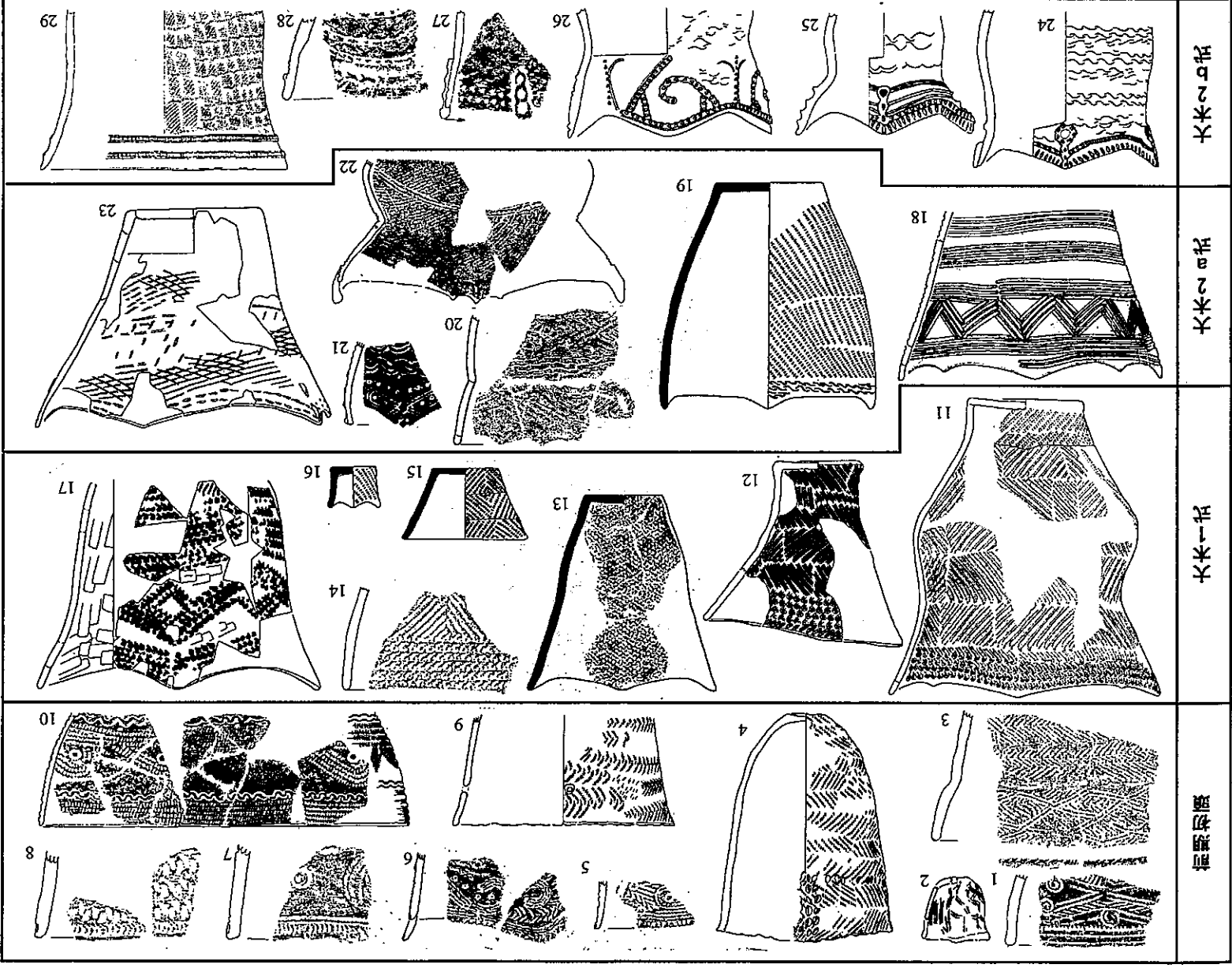
-105,085

-105,080

-105,075

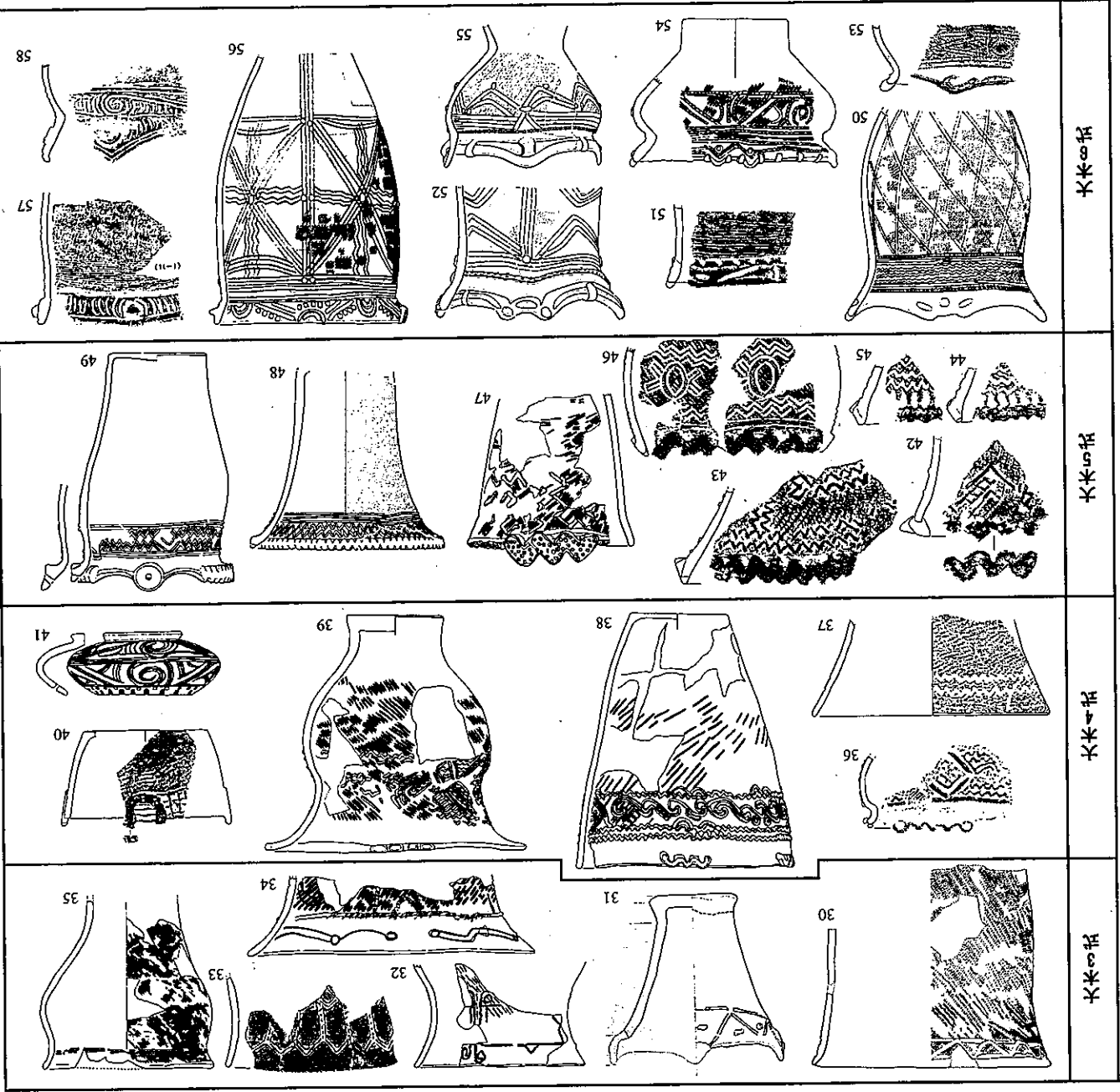


縄文土器  
編年図1



第1図 東北中・南部前期縄文土器の編年相別模式図(1)

1・3: 上川名貝塚(宮城:1/6) 2・4~9: 土埴貝塚(宮城:1/4・1/6) 10・17: 段ノ原B(福島:1/8) 11・12・18・20: 今熊野(宮城:1/6) 13~16・19: 三神塚(宮城:1/6) 21・23: 泉(宮城:1/6) 22: 宇輪台(福島:1/8) 24~27: 小林A(山形:1/6・1/8・1/10) 28・29: 六田(宮城:1/4・1/8)



第2図 東北中・南部前期縄文土器の編年別様式図(2)

30・31・40・42~45・51・53・54:大木田貝塚(宮城:1/6・1/8) 32・34:牧田貝塚(岩手:1/10) 33・35:綾織新田(岩手:1/8) 36~39・41:押出(山形:1/8・1/10) 46:鹿島(福島:1/8) 47:北原街道B(宮城:1/8) 48・49・52・55:蓬倉貝塚(宮城:1/8) 50・56:小梁川(宮城:1/10・1/12) 57・58:長根貝塚(宮城:1/8)